

株式会社だるま食品本舗 サステナブル経営支援ローン 評価レポート

評価日: 2025年9月30日

株式会社北洋銀行
五稜郭公園支店

1. 基本情報

企 業 名	株式会社だるま食品本舗	
代 表 者 名	工藤 哲也	
所 在 地	本社 北海道函館市西桔梗町 589 番地の 216	
資 本 金	2,500 万円	
従 業 員	28名(2025年9月現在)	
業 種	食品製造行	
事 業 内 容	納豆、こんにゃく、カット野菜その他製造並びに卸し販売	
沿 革	1950年4月	小島 誠治氏が個人創業
	1970年3月	株式会社だるま食品本舗へ組織変更
	2002年8月	小島 節弥氏が代表取締役に就任
	2013年4月	工藤 哲也氏が代表取締役社長に就任
		小島 節弥氏が代表取締役会長に就任

2. 経営方針

だるま食品本舗の経営方針は、「地場の食材をしっかり理解し商品にする」ことを念頭に、以下のとおりである。

「地域に根付く食文化を」という方針が、商品開発・販売・文化発信すべての中心軸になっており、素材の選定にこだわり、生産者との協働、(契約栽培・研究機関との連携)、製造技術の工夫(冷凍納豆等)、函館を中心とした国内外への市場展開といった具体的な事業活動に落とし込まれている。

経営方針

—『地域に根付く食文化を』—

- ・生産者がわかる地元の新鮮な農作物を使うこと。
- ・素材を新鮮なうちに加工し、商品化・販売すること。
- ・地域に根づいた食文化を守り、発展させること。
- ・大量生産・大量消費の時代にあって、「無駄のない生産・消費」を提案すること。
- ・「昔ながらの手法、技、知恵」と、現代の開発技術・経験を調和させていくこと。
- ・未来につながる食文化を創造・提案し実行していく姿勢。

3.事業概要

だるま食品本舗は、納豆・もやし・こんにゃく・野菜・山菜などの食料品を自社工場で製造し、スーパーなどの小売事業者や外食事業者へ販売している。当社の事業は、以下の強み・特徴を有している。

①地元農産原料の調達・加工

道南（北海道南部）の新鮮な農作物を素材として使い、それを自社工場で加工して製品を作る体制を確立している。特に「たまふくら」という極大粒大豆を使った商品開発に力を入れており、育種段階から関わるなど原料選定・品質確保の上流工程にも携わっている。

②商品開発と製造・販売の一貫体制

自社工場で製造、卸売・小売を含む販売までを一貫して行う仕組みを持っている。また、地産地消・地域食文化を意識した商品づくりを掲げており、素材・製法・味などにこだわりを持っている。

③新商品・付加価値商品の開発

「たまふくら納豆」、「ごちそう納豆」など、差別化を図る商品のラインナップがある。また「冷凍納豆」の開発など、賞味期限や流通面での課題に対応する技術開発も進めており、海外販売の道を開拓している。

④販路の拡大

首都圏の物産展出席などで地元の商品を広く知つてもらう活動をしており、リピーターもついている。また、海外からのニーズにも応じ、冷凍商品のような形での輸出展開も行っており、販売先ポートフォリオを多様化させている。

■たまふくらプロジェクト

北海道南部で栽培される地元の極大粒大豆「たまふくら」を使った商品を開発。単に仕入れるだけでなく、育種・栽培段階から農家・研究機関と協力し、品種改良や品質確保に取り組んでいる。「たまふくら納豆」や「ごちそう納豆」は、甘み・食感・粒の大きさを活かした地域発の特色商品である。



出所:当社提供資料

■SDGs 取組み

だるま食品本舗では、「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同するとともに、事業活動を通じて SDGs の達成に貢献するため、2023 年 6 月に「SDGs 宣言」を策定している。この宣言では、経営理念に整合する「北海道の良質素材を活用」、「『マメに粘り強く』、健康で多様性のある職場づくり」、「持続可能な循環型社会へ」、「地域に貢献し、愛される企業を目指して」の 4 つのテーマを設け、環境・社会・経済に好影響を与える様々なサステナビリティ活動を行い、持続可能な社会の実現と自社の企業価値向上の両立を目指している。

今後は CO₂ 削減や再生エネルギー活用、具体数値化とステップアップを進めていくとともに、地元の良質素材を活かした持続可能な食文化を提供していく。



出所:当社提供資料

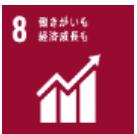
4. サステナビリティ目標

株式会社だるま食品本舗の更なる企業価値の向上と、持続可能な開発の実現にむけた社会課題を踏まえ、以下のサステナビリティ目標を設定した。この目標は、だるま食品本舗の事業エリアである北海道が持続的に発展し、魅力ある地域を創り上げていくために策定した「北海道総合計画(2024)」などを参照し、設定したものである。目標達成への企業行動を通じて、株式会社だるま食品本舗のプレゼンス向上と地域社会が目指す姿の実現に貢献するものであり、目標は有意義である。

(1) 環境面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	脱炭素社会実現への貢献	
目 標 ・ K P I	温室効果ガスの可視化を実施する。	
関連する SDGs	 7 アクセスをみんなに そしてクリーンに	 13 気候変動に 具体的な対策を

(2) 社会面におけるサステナビリティ目標

重 要 課 題	人的資本経営の推進	
目 標 ・ K P I	役職員のエンゲージメントの可視化を実施し、継続的に向上させる。	
関連する SDGs	 3 すべての人 健康と福祉を	 8 働きがいも 経済成長も

留意事項

本文書は、北洋銀行が借入人に対して実施する「サステナブル経営支援ローン」に際し、借入人の企業経営とサステナビリティ目標に対する北洋銀行の評価を述べたものです。

本文書に記載された情報は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

北洋銀行は当文書のあらゆる使用に起因して発生する全ての直接的、間接的損失や派生的損害については、一切義務または責任は負わないものとします。

本評価書に関する一切の権利は北洋銀行に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用(複製、改変、翻案等を含む)は禁止されています。